

transferred to *Camellia* by the author in Journ. Jap. Bot. 50: 299, 1975. The valid date of publication of this new combination should not be in *Tsubaki*, a periodical of Japan Camellia Society, no. 13: 6, 1974, as it is not proposed to be in accordance with the International Code of Botanical Nomenclature.

The followings are necessary new combinations concerning the rest of Prof. Hu's new species that are published under the genus *Theopsis*.

**Camellia euonymifolia** (Hu) Tuyama, comb. nov.

syn. *Theopsis Euonymifolia* Hu in Acta Phytotax. Sin. 10: 140, 1965.

**Camellia longipedicellata** (Hu) Tuyama, comb. nov.

Syn. *Theopsis longipedicellata* Hu l.c. p. 141, 1965.

**Camellia lungyaiensis** (Hu) Tuyama, comb. nov.

Syn. *Theopsis lungyaiensis* Hu, l.c. p. 141, 1965.

○ウロコミズゴケの多胞体 (小野庄士) Syoshi ONO: On polysety found in *Sphagnum squarrosum* Crom.

コケ植物では雌花から通常は 1 個の胞子体が発達してくるが、多胞体 polysety といわれるのは 2 個以上の胞子体が発達する現象である。Dicranaceae や Miniaceae の種では常に 2 個以上の胞子体を出すものもあるが、これらはむしろ例外的といえる。

これまでにコケ植物で観察された polysety の例は 60 種ばかりに上がるが、ミズゴケ類における polysety の報告はごく少ない。Lyon (1905) が北アメリカ産の *Sphagnum* sp. で記録し、Gyorffy (1931) がヨーロッパ産の *Sphagnum palustre* L., *Sphagnum magellanicum* Brid. で記録しているにすぎない。最近、山形県西置賜郡飯豊町の母峰山で採集したウロコミズゴケ (*Sphagnum squarrosum* Crom.) で、写真に示したように 1 本の偽柄上に 2 個の胞子体が発達した polysety の個体を発見したので報告する。

ウロコミズゴケでは雌枝先端に 1 ~ 5 個の造卵器が造られるが、受精し発達するのは常に 1 個である。他の造卵器は若い胞子体の周辺に付着しているが、のちに脱落する。これは、1 個の造卵器での受精が他の造卵器での受精を抑制するためによるものか、あるいは、造卵器体の成熟時期のずれによるものかであろう。今回発見された胞子体は完全に二個体からなるが、その成熟において差があり、一方が四分胞子完成時にあり、胞子の外皮の肥厚がみられるのに、他方は四分胞子ができつつある時期であった。このことはもともとその受精にずれがあるのか、あるいは、同時に受精した後の栄養の片寄りによる結果であろう。偽柄上に 1 個の胞子体ができる場合には、この胞子体の蒴は直径 2.0 mm で、胞子は  $18 \times 18 \mu$  であった。polysety の場合は大きな蒴が直径 1.7 mm、小さい方が 1.2 mm で、大形蒴内の胞子細胞は  $18 \mu \times 18 \mu$ 、小形の蒴内の胞子

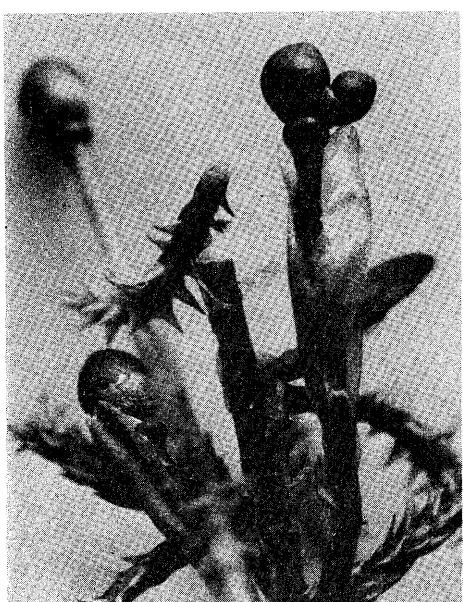


図 1. ウロコミズゴケの polysety. ×約 3.5.

polysetous sporophyte (two sporophytes on a pseudopodium) was newly found in *Sphagnum squarrosum*. The capsule of monosetous sporophyte of this species was about 2 mm in diam. but those of polysetous sporophytes were 1.7 mm and 1.2 mm in diam. respectively. There was found no significant difference of spore-size between the spores of monosetous and polysetous capsules, and the spores were about  $18\ \mu$  in diam. in both cases.

**引用文献** Gyorffy, I. (1931) : *Sphagnum-Monstruositaten aus der Hohen-Tatra*. Rev. Bryol. Lichenol. 4 : 189-193. Lyon, H.L. (1905) : Polyembryony in *Sphagnum*. Bot. Gaz. 39 : 365-366. Longton, R.E. (1962) : Polysety in the British Bryophyta. Trans. British Bryol. Soc. 4(2) : 326-333.

(米沢東高等学校生物研)

○ “杉本順一「植物界」の有効出版性について”に関する意見 (田村道夫\*・堀田 満\*\*・河野昭一\*\*\*) Michio TAMURA, Mitsuru HOTTA, Shoichi KAWANO : An opinion for “Was Sugimoto's the Nippon Journal of Botany published effectively?”.

本誌55巻3号（昭和55年3月）に、本田正次博士ほか6氏によって杉本順一氏の「植

細胞は  $18 \times 17\ \mu$  であった。Longton (1962) は *Atrichum undulatum* の polysety の解析の結果, polysety の場合の胞子の大きさは monosety の場合とほとんど有意な差がなく、蒴の大きさならびに蒴内の胞子の数に差があることを報告している。今回のウロコミズゴケの場合は、試料が少なくて充分な解析はできないが、上記のように蒴の大きさは明らかに monosety の場合より小形になるが、胞子の大きさはほとんど同じで Longton (1962) の述べている傾向とよく似ている。

本報をまとめるにあたり、御指導賜った井上浩博士に感謝する。

The polysetous sporophyte  
(two sporophytes on a pseudo-